

昭和56年度 北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1982. 4. 10受理)

1. 害虫の発生状況

北海道林務部, 北海道営林局, 各営林支局, 北海道林木育種場, そのほか学校林など山林所有者からの, 同定依頼, 被害報告ならびに北海道大学,

北海道林業試験場, 林業試験場北海道支場の観察調査をもとにして, 昭和56年度, 北海道に発生した森林害虫の発生状況を第17回, 北海道森林昆虫談話会(昭和57年3月12~13日開催)でとりまとめた(表-1)。

表-1 昭和56年度森林害虫発生概要

| 害虫名 | 樹種 | 発生地(面積ha) | 備考 |
|------------------|--------------|--|--|
| フシダニの1種 | トドマツ | 江別市 | 雄花に集団で寄生する。 |
| スギノハダニ | スギ | | 54年度に道南地方で多発(8,000ha)しているが55, 56年度は報告がない。 |
| トドマツノハダニ | トドマツ | | 幼齡造林地, 苗畑で散見 |
| イヌガヤワタカイガラ | イチイ | | 各地の庭園樹に多く発生している。 |
| ナシシロナガカイガラ | ナナカマド | 札幌市 | 街路樹に多い。 |
| ヒメカサアブラ | トドマツ アカエゾ | | 各地の幼齡造林地, 苗畑 |
| エゾマツカサアブラ | エゾマツ | 一ノ橋署(5.44), 札幌市 | 一ノ橋署は, 昭和31年植栽木, そのほか各地の幼齡造林地に発生している。 |
| カラマツカサアブラ | グイマツ | 一ノ橋署(2.28) | |
| トドマツオオアブラ | トドマツ | 北海道局 (3,583.00) 函館支局 (262.83) 旭川支局 (279.76) 帯広支局 (979.00) 道有林 (1,062.00) 民有林 (1,301.59) 計 (7,468.18) | 防除面積 北海道局 (3,178.00) ha 函館支局 (214.56) 旭川支局 (85.02) 帯広支局 (979.00) 道有林 (1,478.00) 民有林 (1,199.58) 計 (7,134.16) |
| エゾマツオオアブラ | アカエゾ | 北海道局 (2,092.00) 旭川支局 (462.95) 道有林 (1,192.00) 民有林 (32.40) 計 (3,779.35) | 防除面積 北海道局 (2,000.00) ha 旭川支局 (122.09) 道有林 (1,138.00) 民有林 (12.50) 計 (3,272.59) |
| トドマツノタマバエ | トドマツ | | 太平洋岸に面した幼齡造林地で散見 |
| スギタマバエ | スギ | 松前町, 福島町, 函館市, 尻岸内町, 南茅部町, 熊石町, 厚沢部町, 八雲町, 長万部町, 豊浦町, 札幌市 | 道南地方のスギ造林地のほぼ全域に認められる。 |
| マツバノタマバエ | クロマツ | 桧山署(63.88) 江差町, 松前町, 木古内町, 尻岸内町, 鹿部村, 森町 | |
| エゾマツノシントメタマバエ | アカエゾ | 札幌市 | 庭園樹, その他幼齡造林地に散見 |
| クリタマバチ | クリ | 美瑛市, 札幌市, 室蘭市 | 道南の各地で継続して発生 |
| シラカバノクロボシハムグリハバチ | シラカンバ | 札幌市 | その他の幼齡造林地 |
| エゾマツハバチ | アカエゾ トウヒ類 | 江別市 | 北海道林木育種場 |

| 害虫名 | 樹種 | 発生地(面積ha) | 備考 |
|--------------|---------|--|--|
| カラマツキハラハバチ | カラマツ | 大樹署(30ha) 札幌市 | |
| カラマツハラアカハバチ | カラマツ | 苫小牧林務署(穂別町101.00, 厚真町163.00, 早来町81.00, 追分町50.00), 苫小牧市(220.00), 早来町(217.00), 厚真町(657.00), 穂別町(206.00), 計(1,695.00) | 防除面積 苫小牧林務署 123.00ha 苫小牧市 220.00 早来町 217.00 厚真町 568.24 穂別町 203.60 計 1,331.84 |
| ハバチの1種 | カラマツ | 浦河林務署(新冠町) | 被害は微少, 8月の風倒被害によって一部を伐採 |
| スイコパネガの1種 | シラカンバ | 札幌市 | シラカバノクロボシハムグリハバチの加害と似ており, これまで混同視されていたものである。 |
| マツマダラメイガ | トドマツ | 今金署(1.58) | 昭和40年植栽, 採種園の球果に穿入加害 |
| ドイツトウヒマダラメイガ | アカエゾ | 江別市(1.00) | 幼虫は集団で枝に鳥巣状の巣をつくり, 葉を食害, 巢内で蛹化, 7月上旬に成虫となる。 |
| マエアカスカシノメイガ | ヤチダモ | 長沼町(23.00) | |
| マツトビマダラシムシ | トドマツ | 江別市 | 球果に穿入加害, 道内では本種の加害が多いようである。 |
| トウヒツヅリハマキ | トドマツ | 恵庭署 | 幼虫は小さい。新梢の梢部を加害。同様の加害状況(シモ害に似る)が北見紋別のアカエゾについて認められているが, 加害虫は確認していない。 |
| マツヒメハマキ | ストローブマツ | 苫小牧署 | |
| トドマツメムシガ | トドマツ | 滝川林務署(芦別市83.00) | |
| トドマツアミメハマキ | トドマツ | 旭川林務署(旭川市58.00) 浦臼町(1.48) | 旭川林務署, 昭和54年から被害発生, 葉の変色は55年が最も多く(89.00), 56年は上部の枝葉が変色した程度であった。 |
| トウヒノオオハノキ | トドマツ | 東神楽町(7.80) 和寒町(4.56) | |
| マツアトキハマキ | トドマツ | 芦別署(3.00) | |
| カラマツイトヒキハマキ | カラマツ | | 前年まで道東地方で多発していたが56年度報告なし |
| コメツガクチブサガ | トドマツ | 和寒町 | 道林試で調査中 |
| カラマツツツミノガ | カラマツ | 鹿追町(80.00) | |
| ツガカレハ | トドマツ | | 報告なし |
| マイマイガ | カラマツ | 芦別署(118.00), 美瑛町(6.52), 風連町(6.04), 滝ノ上町(2.72) | 芦別署は初期発生の様相 |
| ヤナギドクガ | ドロ | 壮瞥町 | 昭和新山, 単木の発生 |
| キアシドクガ | ミズキ | | 昭和50年ころから石狩, 空知, 胆振, 日高地方に広く発生していたが, 当年は終息したようである。 |
| ミスジツマキリエダシャク | カラマツ | 美瑛町(6.00), 東川(2.40) | |
| オオビスジエダシャク | イチイ | 美瑛町, 札幌市 | 庭園樹, 全葉を食害 |
| セグロシャチホコ | ボブラ | 札幌市 | 各地で散見 |
| ブナアオシャチホコ | ブナ | 函館林務署(戸井町1,861.00, 尻岸内町2,553.00, 函館市5,604.00 計 10,018.00) | 戸井町, 函館市の1,600haは大発生 |
| ガの1種 | シラカンバ | 札幌市 | 本邦未記録種, 幼虫は小さく, 形成層に穿入 |
| キバネセセリ | ハリギリ | 札幌市 | 道央各地, 夏の雨の影響で発生数は少ない |
| ヒメコガネ | 針広 | 各地の苗畑 | |
| ナガチヤコガネ | イチイ, 他 | 札幌市 | その他道央で大発生, 庭園樹を加害 |

| 害虫害 | 樹種 | 発生地(面積ha) | 備考 |
|--------------|--|---|--|
| オオスジコガネ | トドマツ カラマツ アカエゾ アウヒ ストロブ その他 | 恵庭署(カラマツ29.00, トド3.00, アカエゾ0.50, ストロブ39.00, その他9.00), 森署(トド17.00), 倶知安林務署(長万部町, トド2.00), 黒松内町(トド8.00), 蘭越町(トド6.00), 千歳市(トウヒ, カラマツ60.00) | |
| スジコガネ | カラマツ トドマツ | 浦河林務署(新冠町, 微) 札幌市 | |
| ハンノキハムシ | 札幌市 | | 当年発生は少ない様子 |
| ヤツバキクイ | エゾマツ | | 8月23日, 台風15号が北海道を通過, 十勝地方を中心に全道的に風倒被害が発生 |
| カラマツヤツバキクイ | カラマツ | 興部林務署(西興部村12.00, 興部町63.00) 紋別市(42.10) | 定山溪署(6.00ha防除), 前述の台風, さらに10月23~24日の冠雪害により美深から上川地方にかけて折れ, 幹曲りの被害が発生している。 |
| スギノアカネトラカミキリ | スギ | 松前林務署(松前町2.00) 七飯町 | 昭和56年度主伐, 被害調査はしていないが, 枯枝に加害孔道がみられ, 試験挽きの結果トビクサレが認められた。 |
| ナガタマムシの1種 | シラカンバ | 北見市(3.57), 訓子府町(30.90), 端野町(20.13), 置戸町(21.67), 留辺蘂町(27.29) 計(103.56) | 1~3cmくらいのシラカンバの樹幹部に産卵, 1~2年生枝にも穿入加害, 道林試で調査中 |
| チョッキリの1種 | トドマツ | 芦別営林署, 恵庭 | |

2. 主な害虫の発生動向

苗畑害虫: 苗畑ではトドマツノハダニ, ヒメカサアブラなどの寄生が各地で観察されているほか, 土中ではヒメコガネ, ナガチャコガネなど根幼虫による被害も各地で増えているようである。

吸汁性害虫: 恒常的に発生をつづけているオオアブラムシ類の被害が近年減少の傾向を示しているが, これは新植の造林面積が減っていることもその理由の一つとなっているようである。

虫えい害虫: 江差町砂坂のクロマツ海岸林に51年から継続発生しているマツバナタマバエは, かつての激害林分で生息密度が減少し, 全体的に回復の傾向にある。なお新たに松前町, 木古内町, 尻岸内町に分布していることが確認されたほか, これまで分布が認められていなかった鹿部村, 森町にも分布していることが確認された。スギタマバエは道南地方のほぼ全域に分布していることが確認されたほか札幌市でも寄生木がみかっている。またクリタマバチは美唄市のほか札幌市, 室蘭市でも寄生木があることが確認された。エゾマツカサアブラは下川町で昭和31年植栽のエゾマツ造林木に寄生していることが報告されたほか, 札幌市そのほかの幼齢造林地に発生しているのが観察されている。カラマツカサアブラは51年植栽のグイマツに発生していることが報告された。

新梢穿入害虫: 恵庭のトドマツ天然木でトウヒツヅリハマキの加害がみられた。この幼虫は小さく, 新梢の先端部(新芽の基部)に寄生加害, 被害枝は一見霜害に似る。北見紋別のアカエゾで同様の症状をした造林木が観察されているが加害虫は確認されていない。また芦別市, 恵庭など道央のトドマツ幼齢造林地で, 新梢の先端がおれ, 下垂する, ハラダチョツキリの加害跡に似た被害が



写一 1 チョツキリの1種によるトドマツ新梢の被害(6月25日, 吉田成章)

観察されている。なお前年道央地方で新梢の髓部に穿入加害しているマツマダラメイガの被害が見されたが, 当年の発生は少なく, 被害はほとんど認められなかった。

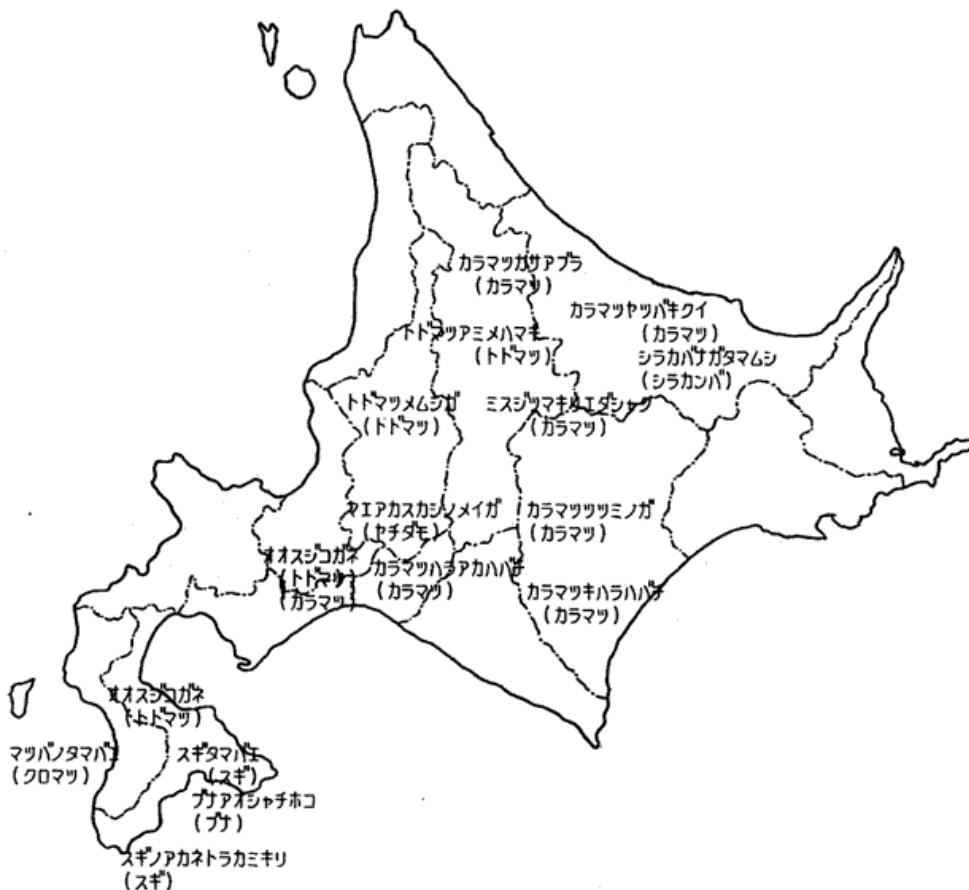
種子球果の害虫: 各地の採種園でようやく結実をみるようになった所も多くなっているが, 一方

球果を加害する害虫も目につくようになった。針葉樹ではトドマツの球果にマツマダラメイガ、マツトビマダラシムシの幼虫が穿入加害しているのが確かめられた。また広葉樹ではミズナラの実に穿入しているゾウムシ幼虫（クリシギゾウ類）の加害について、各地から林業試験場北海道支場の昆虫研究室に同定依頼があった。

食葉性害虫：カラマツキハラハバチは十勝、日高地方を中心に53～54年に大発生したが、55～56年は大樹、新得などで30haに発生したにとどまっている。一方札幌市ではカラマツ、グイマツ幼齡造林地で軽微な発生が観察されている。つぎに胆振地方で52年からはじまったカラマツハラアカハバチの大発生は56年度も約1,700haに達し、すでに5年を経過した。本種の成虫は6月中旬より出現すると報告されているが（井上, 1938）、今回の発生地での成虫出現期は7月下旬～8月下旬であり、したがって幼虫の加害時期もおそくなっている。3 齡級以上の林分が激害をうけているが、幼虫は長枝葉を残す性質があるために、この虫による枯死木はでていない。なおキハラハバチ、ハラアカハバチとも年1回の発生で、土の中でまゆを

つくり幼虫のまま冬を越す。この2種の幼虫の区別は容易でキハラは頭が黄褐色で体は淡緑色、ハラアカは頭が黒く、老熟幼虫になると体の背面がこい緑色となる。

シラカバノクロボシハムグリハバチ幼虫はシラカンバの葉にもぐり葉肉部を加害するが、スイコバネガの1種が同様の加害をしていることが明らかになり、これまで前種の加害と混同視されていたものもあると思う。ドイツトウヒマダラメイガの幼虫はアカエゾの枝に集団で鳥巢状の巣をつくり、葉を食害、巢内で蛹化、7月上旬に成虫となることがわかった。トドマツのハマキガ類が道央地方の芦別市、旭川市などで55年に続いて発生している。和寒町の学校林でトドマツの新梢を加害している虫はコメツガクチブサガであることがわかった。ハマキガ類の食害とちがうのは加害跡が不整一になっていることである。カラマツツツミノガは55年に道南地方で大発生しているが56年は鹿追町に発生した。ツガカレハについての発生報告はないが、かつて昭和51～52年に北見、津別地域を中心に大発生している。これまでの記録ではおよそ10年を1周期として大発生をしているので、



図一 主な森林害虫の発生地

今後の個体数密度の変動については充分注意する必要がある。ミスジツマキリエダシヤクの幼虫は各地のカラマツ林で普通にみられる昆虫であるが、52年に清里町のカラマツ林に発生して林分全体を枯死させ、この時はじめてカラマツを食害することがわかった虫である。その後、53～54年に清里町、55年に厚岸町に発生しており、56年には美瑛町と東川町に発生した。これまでの発生をみると、3 齢級以上の林分に小面積 (10ha以下) に発生し、1年で終息しているようである。ただ幼虫の加害時期がおそいこと、大発生すると一葉残らず食べつくし、さらに枝の軸までも食べるなどから、枯れる木の多いことが多い。ブナアオシャチホコは周期的な発生をすることで知られているが、54年に桧山、森、八雲などで11,000ha以上発生し、55年には小康状態を示していたが、56年は函館市、戸井町、尻岸内町で10,000ha以上発生した。なお、この年次は東北地方でも発生が多くなっている。オオスジコガネ、スジコガネ成虫の食害が恵庭、森、そのほか道央から道南地方でみられている。カラマツイトヒキハマキは54～55年に道東地方で多く発生したが56年は報告がなかった。

穿孔性害虫：ガの1種 (本邦未記録種) の幼虫が札幌市でシラカンパの形成層部に穿入していることが北海道大学農学部昆虫学教室で確かめられた。このガの幼虫は非常に小さいが、寄生することによって材部に黒点のようなしみをつくる原因となっているのではないかと考えられている。北見、置戸地方のシラカンパ幼齡造林地でシラカバナガタマムシ (仮称) の加害が発見された。これについては道林試で調査をしているが、幼虫は樹幹、枝部に穿入する。加害部は異状に肥大して、樹皮は赤褐色に変色する。

56年のキクイムシ類の被害は比較的少ないようであるが、8月23日、台風15号が北海道を通過して十勝地方を中心に全道的に風倒被害が発生、さらに10月23～24日の冠雪害によって上川北部地方を中心にカラマツの折損、幹曲りの被害が発生した。これら風雪害による被害木を繁殖源としキクイムシ類の密度が増加するであろうことが予想されている。

3. 昭和56年1～12月中に報告された関係文献

- 1) 福山研二：平常状態におけるツガカレハ個体群の動態，林試北海道支場年報1980，110～118.
- 2) 福山研二：ツガカレハの生活～ツガカレハはなぜ大発生しないか～，北方林業，33(9)，1～5.
- 3) 古田公人：マイマイガとトドマツオオアブラの密度自然制御機構，森林防疫，30(6)，2～6.
- 4) 東浦康友，鈴木重孝：カラマツハラアカハバチの防除基準，北方林業，33(7)，12～15.
- 5) 北海道森林昆虫談話会：昭和55年度北海道に発生した森林害虫，北方林業，33(6)，15～19.
- 6) 池ノ谷重男：カラマツハラアカハバチの発生と防除について，昭和55年度林業技術研究発表大会論文集，173～175.
- 7) 池ノ谷重男：カラマツハラアカハバチの防除，野ねずみ，163，26～27.
- 8) 伊藤雅之，松井英昭，松村政之：ミスジツマキリエダシヤクの発生と防除について，昭和55年度林業技術研究発表大会論文集 170～172.
- 9) 上条一昭：カラマツ造林地の害虫，光珠内季報，50，15～20.
- 10) 河合広次，千葉信幸：カラマツヤツバキクイの生態調査について，帯広営林支局，昭和55年度業務研究発表論文集 150～157.
- 11) 河崎正剛，藤川正勝：空中散布によるカラマツハラアカハバチの防除，林，356.
- 12) 釧路支庁釧路東部地区林業指導事務所：ミスジツマキリエダシヤクの発生と防除，野ねずみ，166，49～50.
- 13) 村上 博，高橋清志：カラマツヤツバキクイの生態と防除方法の確立について，帯広営林支局，昭和55年度業務研究発表論文集，144～149.
- 14) 佐藤邦彦：森林保護雑考1，北方林業，33(10)，10～13.
- 15) 佐藤邦彦：森林保護雑考2，北方林業，33(11)，9～13.
- 16) 佐藤邦彦：森林保護雑考3，北方林業，33(12)，22～26.
- 17) 柴田 前，井口和信：キバネセセリによるハリギリの被害状況，北方林業，33(4)，9～11.
- 18) 鈴木重孝：トドマツを加害する5種のハマキガの分布構造，応動昆，25(1)，1～9.
- 19) 鈴木重孝，上条一昭：道有林におけるハマキガ類の発生状況，光珠内季報，47，26～27.
- 20) 鈴木重孝，新田季利：北見地方におけるカラマツヤツバキクイの被害と防除試験，北方林業，33(3)，5～10.
- 21) 山田房男：昆虫の越冬と休眠，北方林業，33(3)，1～4.

(林業試験場北海道支場 小泉 力記)